

渡辺復興大臣の青森県訪問ぶら下がり記者会見録

(平成30年11月12日(月) 8:53～8:56 於) 八戸市)

1. 発言要旨

本日、八戸市を訪問し、復興大臣就任の御挨拶と津波の避難施設を一体的に整備した多目的運動場を視察したところでございます。

平地部に位置するこの多目的運動場は、津波避難施設と併せて整備することで、高台まで避難できない人々の一時避難所としての機能を有しております。また、市長から八戸市の被害の状況や復興の状況についてお話を伺い、復興が着実に進展していると改めて感じました。

本日は引き続き、岩手県沿岸の6市町村を訪問する予定であります。現場主義を徹底し、被災地に寄り添いながら、被災地の復興に全力で取り組んでまいりたいと思います。

また本日は、市長への訪問に当たりまして、ヴァンラーレ八戸が、JFLからJ3に昇格したことを心からお祝いを申し上げたいと思います。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 実際に八戸市の、思っていた被害と実際の現実を見て、その違いで何か感じたことはありますか。

(答) 被害の状況については、全半壊が大変多くありますが、現状はほとんどもう復興されているということでした。実際にこの目で確認をさせていただきました。

また、市長のほうから、引き続き事業として、橋脚の付替えについてもお話がありましたので、この点については引き続き検討していかなければならない問題だというふうに思います。

(問) 震災から7年8か月がたって、建物など目に見える形では、復興は感じられると思うのですが、まだまだ行き届いていないところ、どのようなところがこれから支援が必要だと感じていますか。

(答) 私は今まで被災3県を中心に回ってまいりました。そういった状況の中では、被災者が元のふるさとに戻ってきても、心のケアが必要だということが言われておりまして、今後は心の問題に対して、私たちは更に応援をしていく必要があるのではないかなというふうに感じております。

(以 上)